

生活環境評価とまちづくり参画態度の構造化－美浜町住民意識調査を通じて

千頭 聡（日本福祉大学国際福祉開発学部 教授、知多半島総合研究所地域・産業部 部長）
 松岡 崇暢（愛知学泉大学現代マネジメント学部 講師）
 川部 竜士（日本福祉大学研究課）

1. 背景とねらい

本調査は、知多半島南部に位置する美浜町の町民を対象に、身の回りの生活環境に対する現状の評価や今後の取り組みの重要性、地域への帰属意識やまちづくりに対する意識などについてアンケート調査を行った結果をもとに、生活環境に対する住民の意識評価やまちづくりへの参画態度の構造化を図るものである。

なお、本調査は、「第五次美浜町総合計画」策定に向けて、日本福祉大学福祉社会開発研究所まちづくり研究センターが美浜町から受託して行った住民意識調査の結果⁽¹⁾に基づき、生活環境評価等について、多変量解析の手法を用いて分析を行ったものである。

また、筆者らは、2001年11月に、「第四次美浜町総合計画」策定に向けての住民意識調査を、同じく美浜町から受託して行っており⁽²⁾、この調査結果とも比較しつつ、時代の経過による意識構造の変化、差異についても分析する。

2. 調査の概要

(1) 調査対象と調査方法

美浜町に住民票がある18歳以上の住民の中から、住民基本台帳を用いて、無作為に抽出した2,100名を対象として、調査表の郵送配布・郵送回収方式によりアンケートを実施した。調査時期は2011年11月である。

(2) 回収率

有効回収率は表1に示す通り、43.3%であった。

3. 回答者のフェースシート

(1) 性別、年齢、職業

回答者の主な属性は以下のとおりである。

① 性別

男性が回答者全体の45.5%であり、女性の比率がやや高い。

② 年齢

全体の26.2%が60歳代、次いで50歳代が19.1%であり、回答者の年齢構成は全体として、やや高齢者に偏っている。

男女別にみた場合、年齢別構成にはほとんど差がない。

③ 同居している家族（複数回答可）

「74歳以下の高齢者」と同居している世帯

表1：配布数と有効回収数

配布数	有効回収数	有効回収率
2,100	909	43.30%

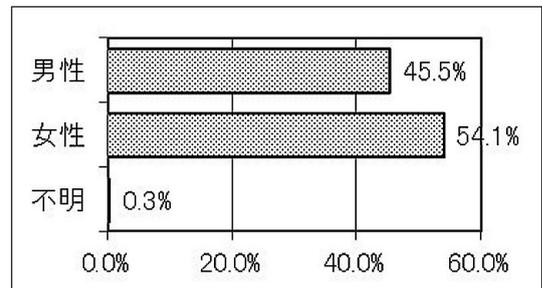


図1：回答者の性別構成

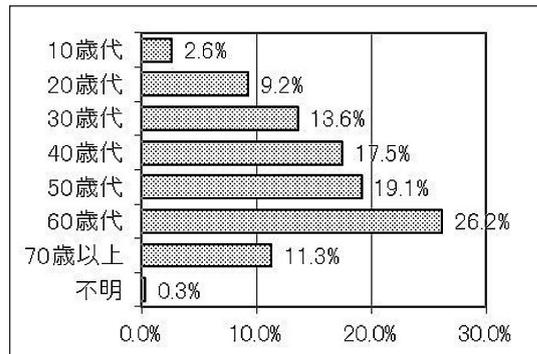


図2：回答者の年齢構成

(回答者)が24.5%、「75歳以上の高齢者」との同居世帯が21.3%である。一方、「乳幼児」あるいは「未就学児」がいる世帯は、それぞれ全体の数%にとどまっている。

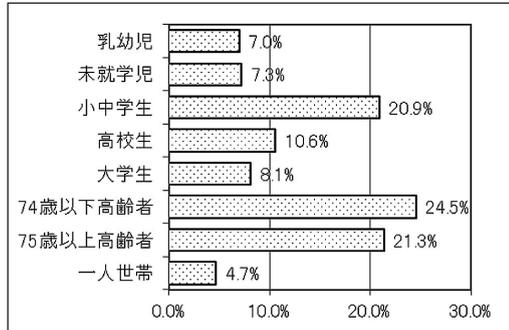


図3：同居している家族

(2) 職業と通勤・通学先

① 職業

「無職」が全体の16.6%と最も多く、「家事専念」が15.3%でそれに次いでいる。一方、職業としては、「事務系会社員」が11.7%と最も多く、「技術系」「労務系」を含めて、会社員の割合が3割を超えている。「農業漁業」は全体の4.8%に過ぎない。

年齢別に職業を見ると、農業漁業の方は8割以上が60歳代以上であり、20歳代から40歳代は全体の約半数が会社員である。

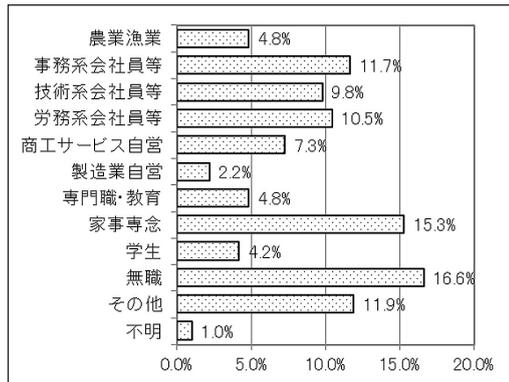


図4：回答者の職業

(3) 町内での居住状況

町内での居住年数は、30年以上が、全体の46.4%と、半数近くに達している。20年以上を

合わせると、6割以上が、長く町内に住んでいることがわかる。

一方、町内に住み始めた時期については、「生まれてからずっと」住み続けている回答者は全体の35%にとどまり、町外から美浜に移り住んだ人が48%と半数近くに達していることが特徴的である。性別にみると、男性の44.9%が生まれてからずっと町内に住んでいるに対して、女性は結婚などで転入してきた人が半数を超える。

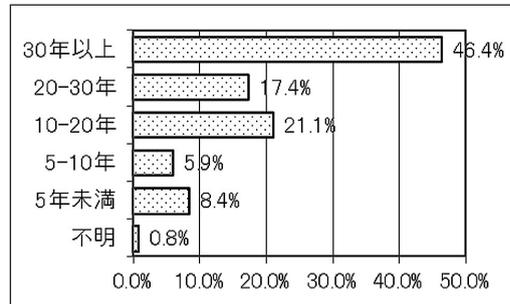


図5：回答者の居住歴

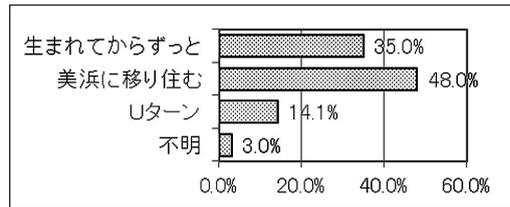


図6：町内での居住状況

表2：性別にみた居住状況

問1性別	問9住み始め				合計
	生まれてずっと	美浜に移り住む	Uターン	不明	
男性	186 44.9%	155 37.4%	65 15.7%	8 1.9%	414 100.0%
女性	131 26.6%	281 57.1%	63 12.8%	17 3.5%	492 100.0%
不明	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	2 66.7%	3 100.0%
合計	318 35.0%	436 48.0%	128 14.1%	27 3.0%	909 100.0%

4. 生活環境に対する満足度

4-1 満足度

生活環境を示す項目として、WHOの考え方などに基づいて、「自然・快適性」「利便性」「安全性」「文化性」の4つの視点を設定し、それぞれの視点ごとに、総合評価および7つの評価項目、全体で32項目に対して、5段階評価で回答を求めた。

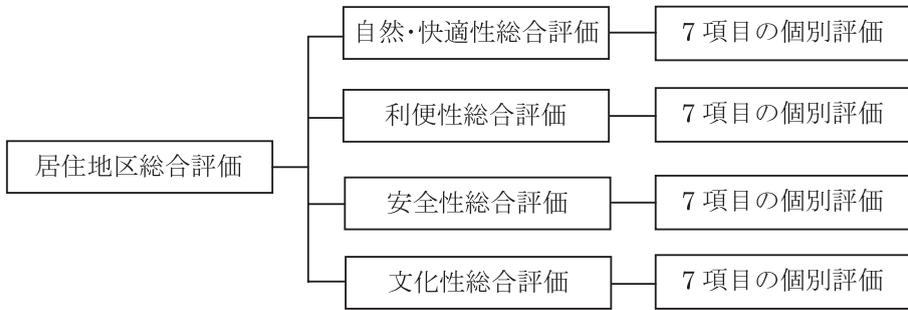


図7：生活環境評価項目の体系

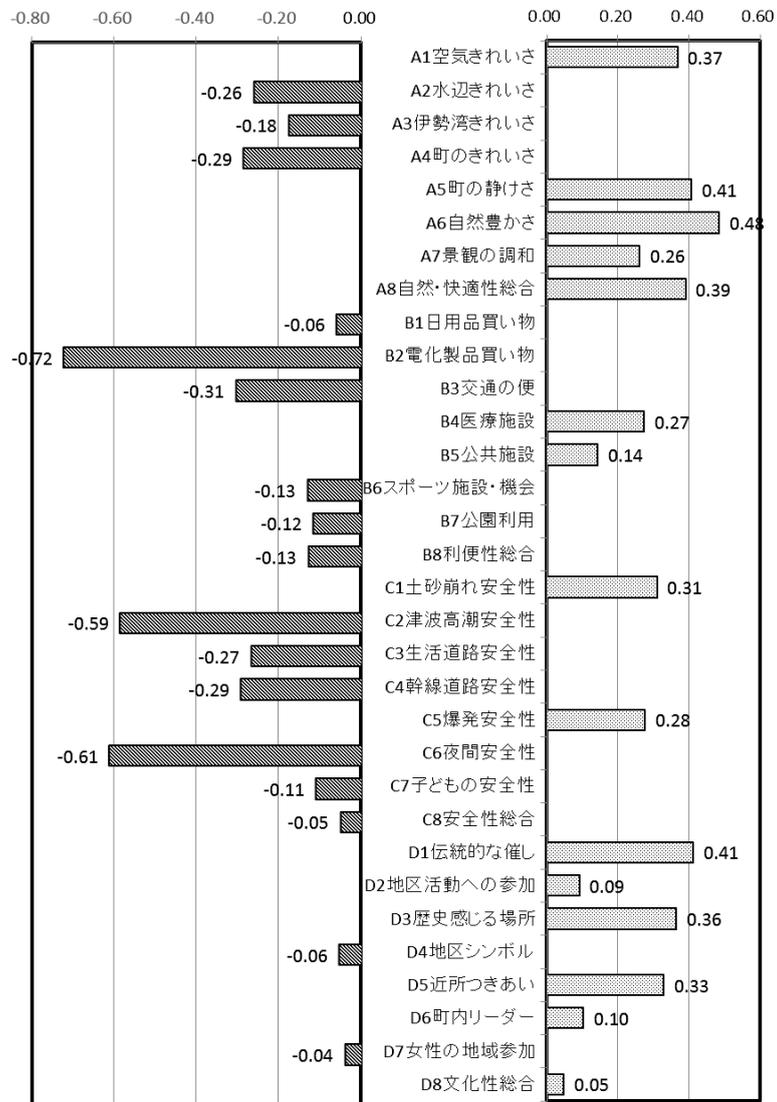


図8：生活環境に対する満足度

その結果を、「非常に満足」を2点、「ある程度満足」を1点、「少し不満」をマイナス1点、「かなり不満」をマイナス2点として、各項目に対する評価結果を得点化して結果を図8に示す。

評価得点が高い項目としては、「自然の豊かさ」(0.48)、「町の静けさ」(0.41)、「伝統的な催し」(0.41)、「自然・快適性総合」(0.39)、「空気のきれいさ」(0.37)などがあげられ、逆に評価得点が高い項目としては、「電化製品などの買い物」(-0.72)、「夜間の安全性」(-0.61)、「津波高潮の安全性」(-0.59)などがあげられる。

4-2 評価項目間の相関関係

視点ごとに、総合評価および各個別評価項目に対する評価結果間のpearsonの積率相関係数を示したものが、表3から表7である。なお、相関係数はすべて、1%水準(両側)で有意であった。

(1) 自然・快適性

相関関係が強い評価項目のペアは、「伊勢湾のきれいさ」と「水辺のきれいさ」(0.600)、「自然の豊かさ」と「景観の調和」(0.626)があげられる。美浜町においては、水辺としては伊勢湾が最も強く意識されていること、里山を中心とした自然が景観として強く意識されている要素であることなどが読み取れる。

(2) 利便性

利便性に関わっては、「スポーツ施設・機会」と「公共施設」(0.690)、「日用品の買い物」と「電化製品の買い物」(0.608)、「スポーツ施設・機会」と「公園の利用」(0.603)などが比較的強い相関関係にある。利便性の評価に影響を与える要素として、買い物の利便性は当然であるが、あわせて、スポーツをする場所や機会も重要な要素となっていることがうかがえる。

(3) 安全性

安全性に関わっては、「幹線道路の安全性」と「生活道路の安全性」(0.796)が非常に強い相関関係にある。また、「子どもの安全性」と「夜間の安全性」(0.587)、「土砂崩れの安全性」と「爆発事故」(0.504)には、0.5を超える相関関係が認められる。他の項目間では、0.5を超える相関関係は認められない。

(4) 文化性

文化性については、多くの項目間の相関関係が強く、特に、「女性の地域参加」と「町内のリーダーの存在」(0.711)、「地区活動への参加」と「伝統的な催し」(0.707)の相関関係が強い。このことは、地区の祭りへの参加が地区活動の中で大きなウエイトを占めていること、町内のリーダーに

表3：自然・快適性に関わる評価項目間の相関係数

満足度	A1空気きれいさ	A2水辺きれいさ	A3伊勢湾きれいさ	A4町のきれいさ	A5町の静けさ	A6自然豊かさ	A7景観の調和	A8自然・快適性総合
A1空気きれいさ	1.000							
A2水辺きれいさ	0.429	1.000						
A3伊勢湾きれいさ	0.380	0.600	1.000					
A4町のきれいさ	0.358	0.464	0.441	1.000				
A5町の静けさ	0.461	0.395	0.369	0.436	1.000			
A6自然豊かさ	0.392	0.466	0.450	0.391	0.484	1.000		
A7景観の調和	0.412	0.457	0.454	0.390	0.489	0.626	1.000	
A8自然・快適性総合	0.506	0.479	0.482	0.478	0.537	0.546	0.658	1.000

注：表中の網掛けは相関係数が0.6以上の項目

表4：利便性に関わる評価項目間の相関係数

満足度	B1日用品 買い物	B2電化製 品買い物	B3交通の 便	B4医療施 設	B5公共施 設	B6スポー ツ施設・ 機会	B7公園利 用	B8利便性 総合
B1日用品買い物	1.000							
B2電化製品買い物	0.608	1.000						
B3交通の便	0.533	0.481	1.000					
B4医療施設	0.455	0.404	0.418	1.000				
B5公共施設	0.397	0.437	0.364	0.526	1.000			
B6スポーツ施設・ 機会	0.367	0.389	0.356	0.473	0.690	1.000		
B7公園利用	0.310	0.352	0.310	0.427	0.557	0.603	1.000	
B8利便性総合	0.525	0.476	0.473	0.560	0.615	0.614	0.593	1.000

注：表中の網掛けは相関係数が0.6以上の項目

表5：安全性に関わる評価項目間の相関係数

満足度	C1土砂崩 れ安全性	C2津波高 潮安全性	C3生活道 路安全性	C4幹線道 路安全性	C5爆発事 故	C6夜間安 全性	C7子ども の安全性	C8安全性 総合
C1土砂崩れ安全性	1.000							
C2津波高潮安全性	0.343	1.000						
C3生活道路安全性	0.405	0.471	1.000					
C4幹線道路安全性	0.381	0.456	0.796	1.000				
C5爆発事故	0.504	0.321	0.448	0.436	1.000			
C6夜間安全性	0.375	0.366	0.397	0.410	0.404	1.000		
C7子どもの安全性	0.416	0.340	0.461	0.476	0.467	0.587	1.000	
C8安全性総合	0.491	0.451	0.610	0.592	0.503	0.616	0.693	1.000

注：表中の濃い網掛けは相関係数が0.7以上、薄い網掛けは0.6以上

表6：文化性に関わる評価項目間の相関係数

満足度	D1伝統的 な催し	D2地区活 動への参 加	D3歴史感 じる場所	D4地区シ ンボル	D5近所つ きあい	D6町内 リーダー	D7女性の 地域参加	D8文化性 総合
D1伝統的な催し	1.000							
D2地区活動への参加	0.707	1.000						
D3歴史感じる場所	0.620	0.637	1.000					
D4地区シンボル	0.505	0.569	0.654	1.000				
D5近所つきあい	0.556	0.584	0.601	0.532	1.000			
D6町内リーダー	0.564	0.601	0.599	0.564	0.675	1.000		
D7女性の地域参加	0.533	0.594	0.572	0.572	0.598	0.711	1.000	
D8文化性総合	0.604	0.607	0.627	0.614	0.639	0.706	0.693	1.000

注：表中の濃い網掛けは相関係数が0.7以上、薄い網掛けは0.6以上

表7：総合的な満足度に関わる相関係数

	A8自然・ 快適性 総合	B8利便性 総合	C8安全性 総合	D8文化性 総合	生活環境 総合
A8自然・快適性総合	1.000				
B8利便性総合	0.470	1.000			
C8安全性総合	0.492	0.501	1.000		
D8文化性総合	0.415	0.498	0.469	1.000	
生活環境総合	0.563	0.556	0.559	0.549	1.000

対する評価として、女性が地域活動に積極的に参加できるようしくみとなっているかどうかが強ク関わっていることを示唆している。

(5) 総合的な満足度

4つの視点ごとの総合評価と全体としての生活環境評価の相関関係については表7に示す。「自然・快適性」と「文化性」との間は相関係数が0.415とやや弱くなっているが、他の項目間では概ね0.5前後の弱い相関関係が認められる。

4-3 数量化Ⅱ類による生活環境評価の構造化

視点ごとに、総合評価を外的基準、各評価項目を説明指標として、林の数量化Ⅱ類を用い、外的基準（生活環境の総合的な満足度）に対して、どの項目（アイテム）の評価結果が大きな影響を及ぼしているかを分析した。なお、分析にあたっては、5段階で評価された意識調査結果を3段階に集約してデータ処理している。

(1) 自然・快適性

自然・快適性に関する数量化Ⅱ類に基づく分析結果を表8に示す。第一軸の寄与率が0.726と高いため、カテゴリースコアならびにレンジの算出は第一軸についてのみ示している。なお、各選択肢（カテ

表8：自然・快適性に関わる寄与率

判別式	相関比	寄与率	累積寄与率
第一軸	0.355	0.726	0.726
第二軸	0.134	0.274	1

ゴリー)のスコアがマイナスであるほど、総合的にはプラス評価に寄与することになっている。

各カテゴリーのスコアを図9に示す。また、各アイテムのレンジを図13にまとめて示す。

各カテゴリーのスコアを見ると、総合評価に最もプラスに寄与しているのは「景観の調和(満足)」(-0.563)であり、次いで「町のきれいさ(満足)」(-0.294)、「空気のきれいさ(満足)」(-0.257)、「伊勢湾のきれいさ(満足)」(-0.233)などがあげられ、これらに対する満足度が総合評価の満足度に寄与していることがわかる。

一方、総合評価にマイナスに寄与しているものは、「景観の調和(不満足)」(0.863)が最も大きく、「空気のきれいさ(普通)」(0.540)、「空気のきれいさ(不満足)」(0.295)なども、総合的な満足度を下げる方向で寄与している。

レンジがもっとも大きい説明変数は「景観の調和」(1.426)であり、次いで「空気のきれいさ」(0.797)である。一方、「水辺のきれいさ」(0.078)は総合的な満足度にはほとんど寄与していない。

(2) 利便性

利便性に関する数量化Ⅱ類に基づく分析結果を表9に示す。第一軸の寄与率が0.727と十分に高いため、カテゴリースコアならびにレンジの算出は第一軸についてのみ示している。なお、自然・快適性と同様に、各選択肢（カテゴリー）のスコアがマイナスであるほど、総合的にはプラス評価に寄与することになっている。

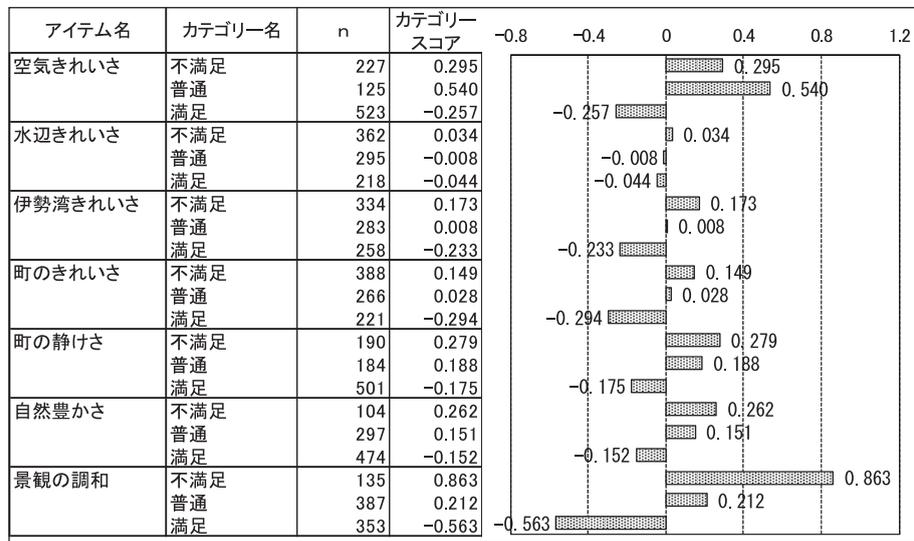


図9：数量化Ⅱ類による自然・快適性に関わるカテゴリスコア

各カテゴリのスコアを図10に示す。また、各アイテムのレンジは図13にまとめて示している。

カテゴリスコアによれば、総合的な満足度に最もプラスに寄与しているものは「公園の利用(満足)」(-0.506)であり、「日用品の買い物(満足)」(-0.325)や「スポーツ施設・機会(満足)」(-0.316)も総合的な満足度にプラスに寄与している。

一方で、「公園の利用(不満足)」(0.364)や「日用品の買い物(不満足)」(0.326)、「スポーツ施設・

機会(不満足)」(-0.300)などは、総合的な満足度にマイナスに寄与している。

各アイテムのカテゴリレンジを見ると、「公園の利用」(0.869)が最も大きく、「日用品の買

表9：利便性に関わる寄与率

判別式	相関比	寄与率	累積寄与率
第一軸	0.433	0.727	0.727
第二軸	0.163	0.273	1

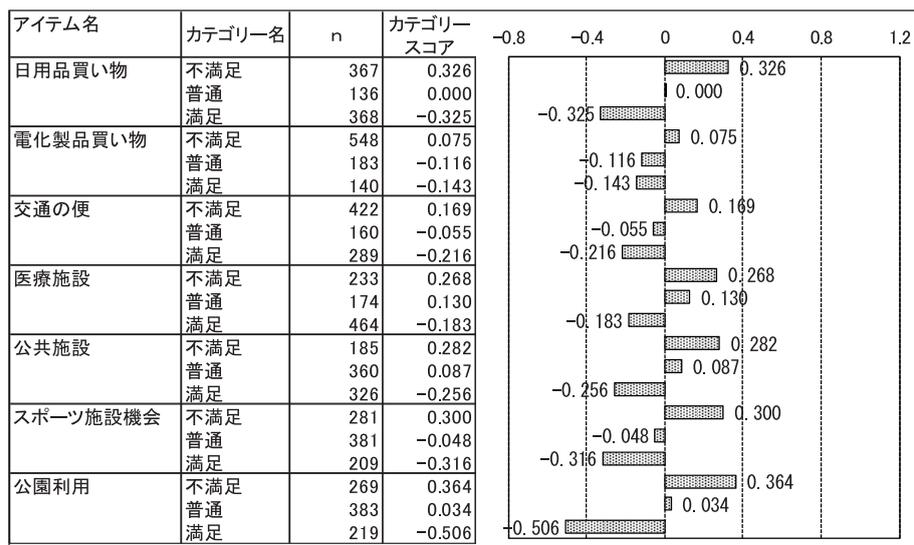


図10：数量化Ⅱ類による利便性に関わるカテゴリスコア

い物」(0.651)、「スポーツ施設・機会」(0.616)がそれに続いている。公園の利用機会はスポーツに密接に関係していることから、全体として、利便性に関する総合評価には、スポーツや公園の利用機会が大きく影響していることが明らかとなった。

(3) 安全性

安全性に関する数量化Ⅱ類に基づく分析結果を表10に示す。第一軸の寄与率が0.692と高いため、カテゴリースコアならびにレンジの算出は第一軸についてのみ示している。なお、各選択肢(カテゴリー)のスコアがマイナスであるほど、総合的にはプラス評価に寄与することになっている。

各カテゴリーのスコアを図11に示す。また、各アイテムのレンジは図13にまとめて示している。

カテゴリースコアを見ると、総合的な満足度に最もプラスに寄与しているカテゴリーは「子どもの安全性(満足)」(-0.658)であり、「夜間の安全性(満足)」(-0.626)もほぼ同程度のスコアである。したがって、この2つのアイテムに対する評価が、全体としての安全性の評価に大きくつながっていることがわかる。「生活道路の安全性(満

足)」(-0.380)も比較的寄与度が高い。

一方、不満側に寄与しているカテゴリーとしては「子どもの安全性(不満足)」(0.637)が最も大きい。次いで、「生活道路の安全性(不満足)」(0.333)や「土砂崩れの安全性(不満足)」(0.221)、「夜間の安全性(不満足)」(0.212)も総合評価にマイナスに寄与している。「津波高潮の安全性」は、不満の割合が非常に多いものの、安全性にかかわる総合評価との相関性は低い結果となっている。つまり、総合評価には、日常生活に直結していることが可視化しやすい「子どもの安全性」や「土砂崩れの危険性」の方が強く意識されていることを示している。

アイテムのカテゴリーレンジが最も大きかったのは「子どもの安全性」(1.295)、次いで「夜間の安全性」(0.838)である。

表10：安全性に関わる寄与率

判別式	相関比	寄与率	累積寄与率
第一軸	0.525	0.692	0.692
第二軸	0.234	0.308	1

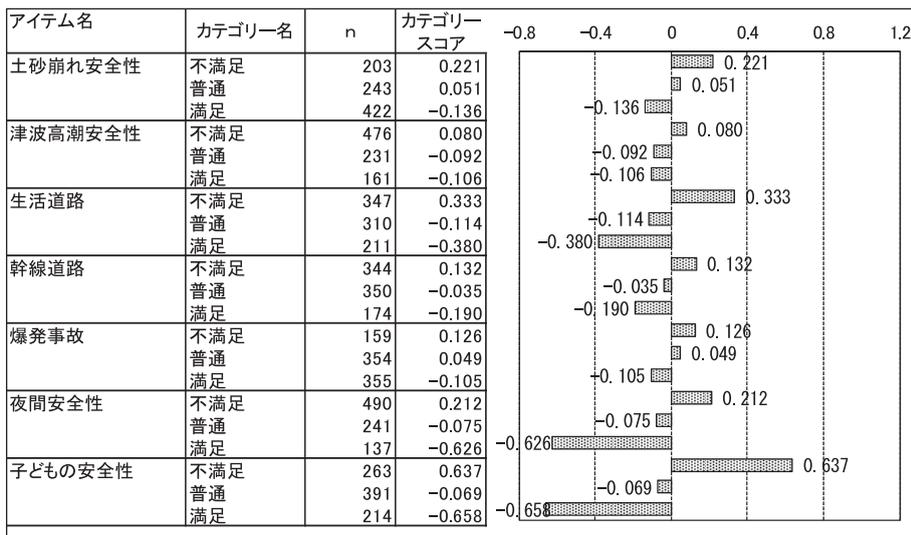


図11：数量化Ⅱ類による安全性に関わるカテゴリースコア

(4) 文化性

文化性に関する数量化Ⅱ類に基づく分析結果を表 11 に示す。第一軸の寄与率は 0.545 であり、他の視点と比較して寄与率はやや低い。ここでは、カテゴリースコアならびにレンジの算出は、他の視点と同様に第一軸についてのみ示している。なお、安全性については、各選択肢（カテゴリー）のスコアがプラスであるほど、総合的にはプラス評価に寄与することになっている。

各カテゴリーのスコアを図 12 に示す。また、各アイテムのレンジは図 13 にまとめて示している。

カテゴリースコアを見ると、文化性に関わる総合評価に最もプラスに影響しているのは、「女性の地域参加のしやすさ（満足）」(0.781) であり、「町内のリーダーの存在（満足）」(0.539)、「地区のシンボル（満足）」(0.475) など比較的高い。

一方、総合的な満足度にマイナスに寄与しているものは、「女性の地域参加のしやすさ（不満足）」(-0.521) および「町内のリーダーの存在（不満足）」(-0.498) である。

各アイテムのレンジをみると、「女性の地域参加のしやすさ」(1.302) が最も大きく、総合評価に影響を及ぼしている。次いで、「町内のリーダーの存在」(1.037)、「地区のシンボル」(0.764) が大きなレンジを示している。

(5) 総合評価 1

生活環境全体の総合評価を外的基準とし、4つの視点に含まれる 32 すべての評価項目を説明変数として、林の数量化Ⅱ類による分析を行った結果を表 12 に示す。第一軸の寄与率が 0.754 と十分に高いため、カテゴリースコアならびにレンジの算出は第一軸についてのみ示している。なお、各選択肢（カテゴリー）のスコアがプラスであるほど、総合的にはプラス評価に寄与することになっている。

各カテゴリーのスコアを図 14 に示す。また、各アイテムのレンジは図 15 に示す。

総合的な満足度に最もプラスに寄与しているのは、「夜間の安全性（満足）」(0.280) であり、次いで、「日用品の買い物」（満足）」(0.250)、「生活道路の安全性（満足）」(0.204)、「景観の調和（満足）」(0.203) などが大きく寄与している。

一方、マイナス側に寄与しているカテゴリーとしては、「空気のきれいさ（不満足）」(-0.332)

表 11：文化性に関わる寄与率

判別式	相関比	寄与率	累積寄与率
第一軸	0.455	0.545	0.545
第二軸	0.308	0.455	1

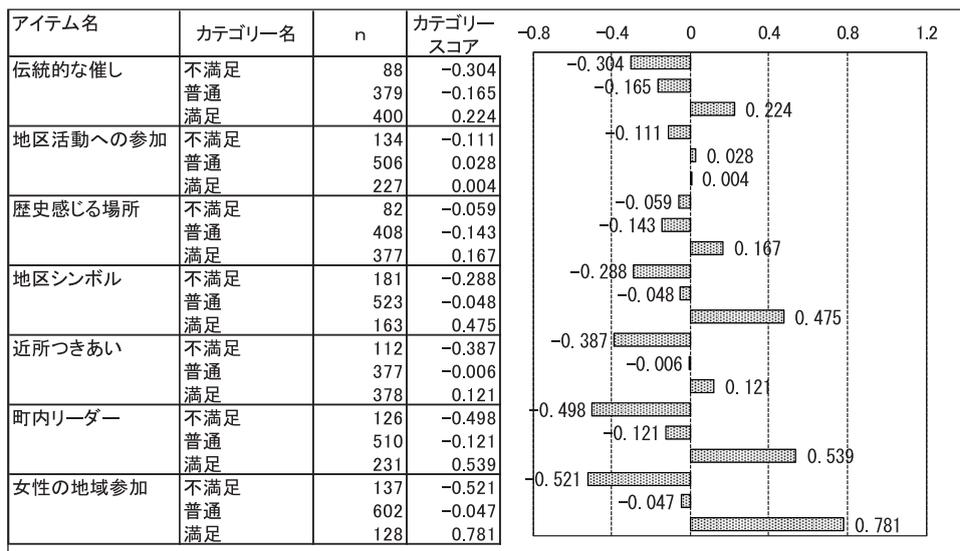


図 12：数量化Ⅱ類による文化性に関わるカテゴリースコア

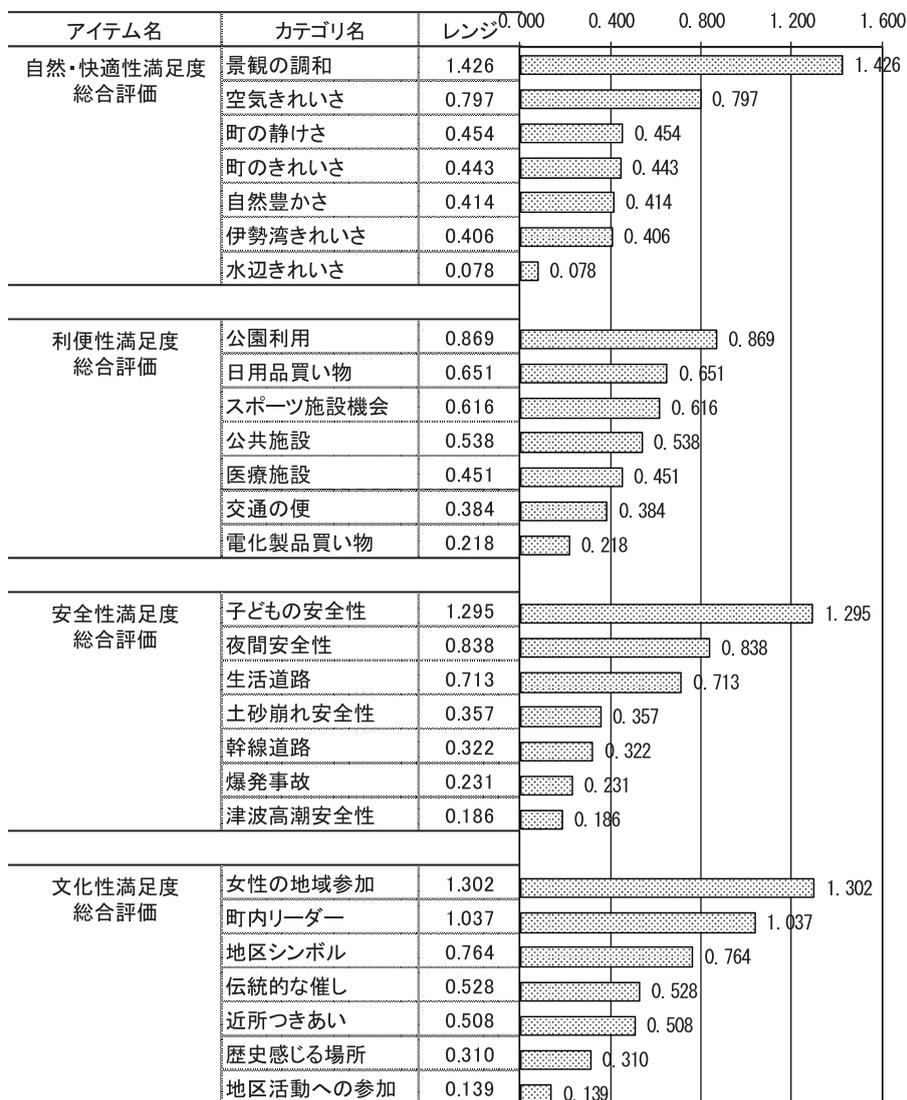


図 13：視点ごとにみたカテゴリースコアに基づくレンジ

および「日用品の買い物（不満足）」(-0.305)が大きく、これらの項目で現状を不満に感じる場合、全体の満足度が大きく低下することがわかる。また、「地区のシンボル（不満足）」(-0.219)、「近所つきあい（不満足）」(-0.217)、「女性の地域参加（不満足）」(-0.217)なども、総合的な満足度を低下させる大きな要因となっている。

カテゴリースコアのレンジをみると、「日用品の買い物」(0.555)、「空気のきれいさ」(0.490)、「伝統的な催し」(0.397)、「景観の調和」(0.385)、「近所つきあい」(0.372)が上位5項目であり、

これらの項目に関する満足・不満足の間合いが、総合的な満足度にもプラス・マイナス両方に関わっていることになる。一方、「自然の豊かさ」(0.012)はレンジが最も小さく、「公共施設」(0.070)、「歴史感じる場所」(0.083)、「幹線道

表 12：総合評価に関わる寄与率

判別式	相関比	寄与率	累積寄与率
第一軸	0.426	0.754	0.754
第二軸	0.139	0.246	1

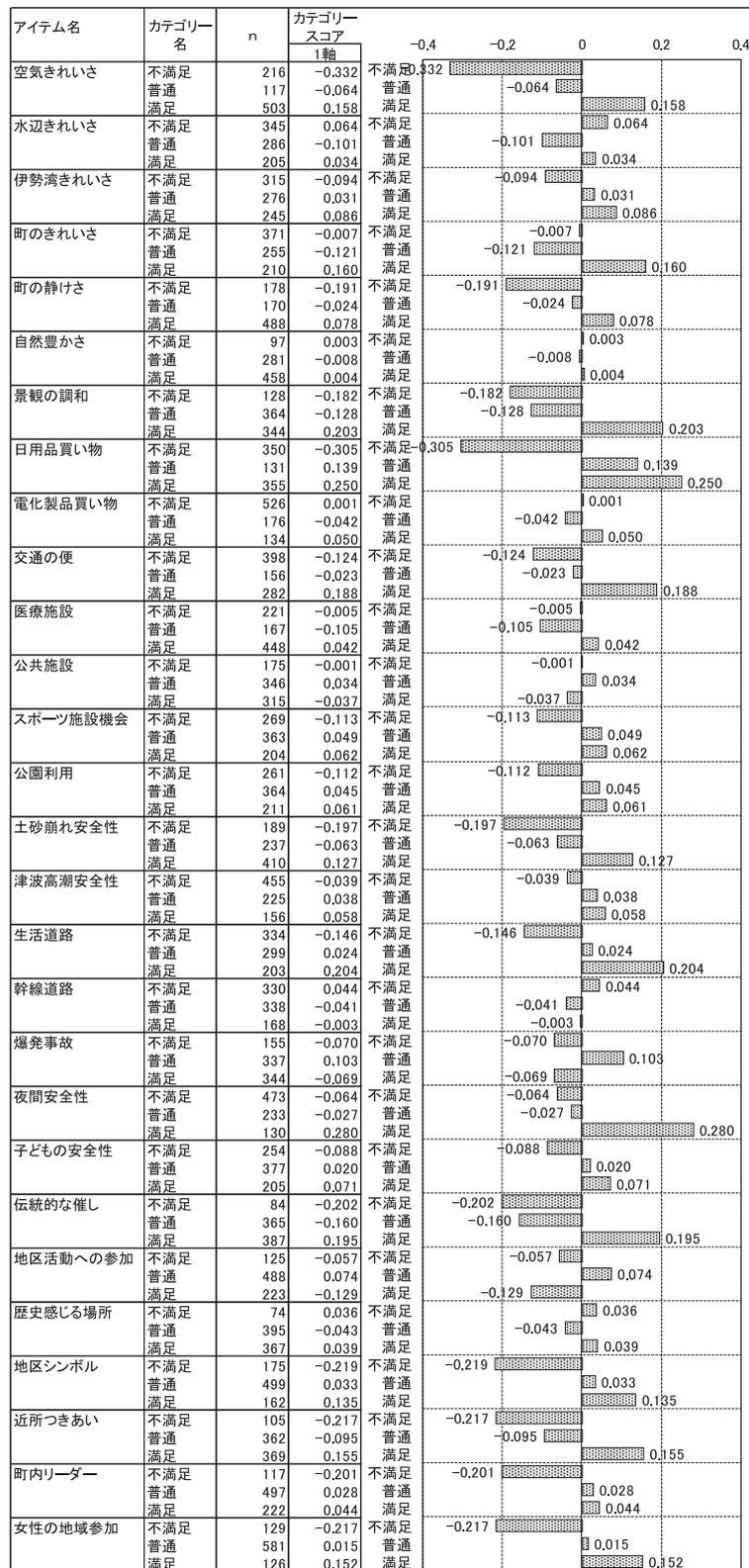


図 14：総合満足度に対するカテゴリースコア

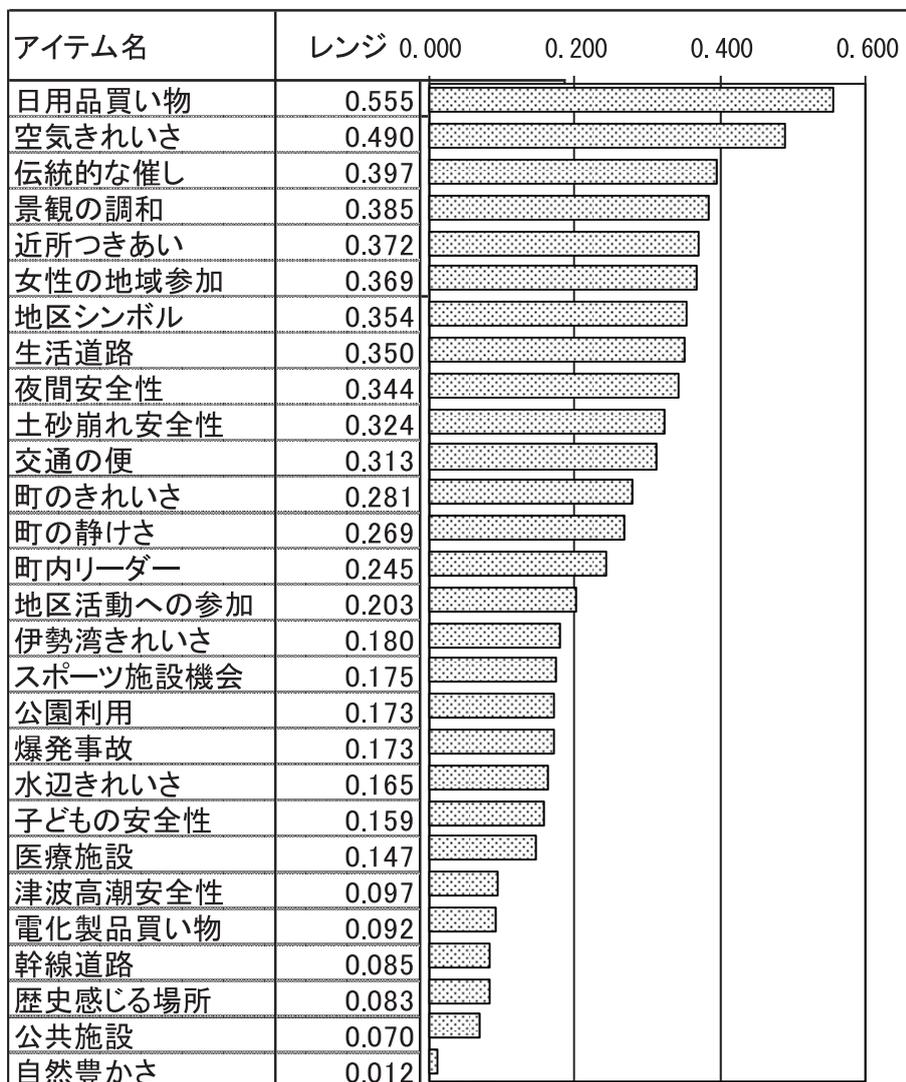


図 15：数量化Ⅱ類による総合評価に関わるレンジ

路の安全性」(0.085)などもレンジが小さいため、これらの項目に関する満足・不満足の間隔は総合的な満足度にはあまり寄与していないことになる。

(6) 総合評価 2

生活環境全体の総合評価を外的基準とし、各視点の総合評価を説明変数として、林の数量化Ⅱ類による分析を行った結果を表 13 に示す。第一軸の寄与率が 0.771 と十分に高いため、カテゴリースコアならびにレンジの算出は第一軸についての

み示している。なお、各選択肢(カテゴリー)のスコアがマイナスであるほど、総合的にはプラス評価に寄与することになっている。

各カテゴリーのスコアを図 16 に示す。また、各アイテムのレンジは図 17 に示す。

カテゴリースコアを見ると、総合満足度に最もプラスに寄与しているカテゴリーは「文化性総合」(-0.522)で、他の 3 つの視点はいずれもほぼ同程度のスコアである。一方、マイナス側の寄与については、「自然・快適性総合」(0.751)が最も大きく寄与しており、次いで、「文化性」(0.577)

である。

アイテムごとのレンジをみると、「自然・快適性総合」(1.131)が最も大きい、「文化性総合」(1.099)もほぼ同程度の寄与となっている。

表 13：総合評価に関わる寄与率

判別式	相関比	寄与率	累積寄与率
第一軸	0.474	0.771	0.771
第二軸	0.141	0.229	1

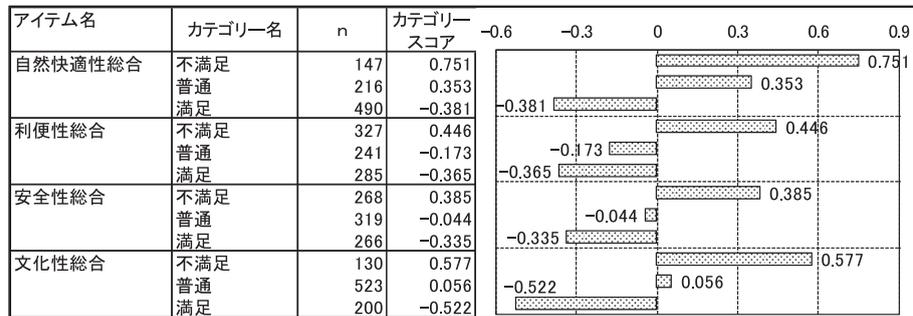


図 16：数量化Ⅱ類による総合評価に関わるカテゴリースコア



図 17：総合評価に関わるカテゴリースコアに基づくレンジ

(7) まとめ

以上で示した林の数量化Ⅱ類に基づく分析結果から、総合的な満足度に強い影響を及ぼしている要因を整理すると、図 18 のようにまとめられる。

カテゴリースコアのレンジから判断すると、生活環境の総合評価に最も影響しているのは「自然・快適性に関わる総合評価」であり、さらにこの評価に影響を及ぼしている主な要因は、「景観の調和」「空気のきれいさ」「町の静けさ」である。総合的な満足度としては、次いで、「文化性に関わる総合評価」があげられ、「文化性の総合評価」には、「女性の地域参加」「町内のリーダーの存在」「地区のシンボル」が影響している。「利便性に関わる総合評価」と「安全性に関わる総合評価」は、全体の総合評価には大きな影響は及ぼしていないことが明らかとなった。

5. 評価構造の比較

筆者らは、2001年に同じく美浜町の住民1,500名を対象とした住民意識調査⁽²⁾を行っている。

ここでは、生活環境に関わる設問について、2001年調査と2011年調査の結果を比較し、地域住民にとって満足度を左右する要因にはどのような変化があるかを比較検討したい。

分析は、前項までと同様に4つの視点ごとに、総合的な満足度を外的基準、各項目の満足度を説明変数として林の数量化Ⅱ類を用い、カテゴリースコアに基づくレンジを比較した。

なお、2001年と2011年とでは、設定した質問項目に若干違いがある。

(1) 自然・快適性

図 19 に示すとおり、自然・快適性に関わっては、2001年には、「空気のきれいさ」「自然の豊かさ」「景観の調和」「生物とのふれあい」が、総合的な

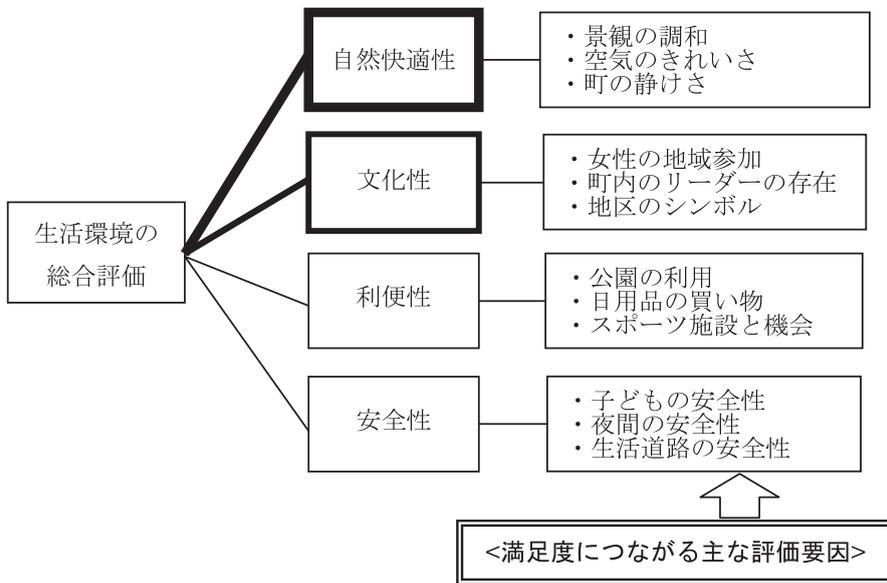


図 18：生活環境評価の主要要因

満足度に大きな影響を持っていた。2011年の結果によると、「景観の調和」が総合的な満足度に非常に大きな影響を与えており、「空気のきれいさ」と逆になっている。逆に「水辺のきれいさ」はいずれの年度においても、総合的な満足度あまり影響を与えない結果となっている。両年度の調査項目の差異を考慮すれば、自然・快適性に関わる住民の満足度評価については、顕著な差は認められないと判断できる。

(2) 利便性

図 20 に示すとおり、利便性については、2001年調査では、「日用品の買い物」「交通の便」などが、総合的な満足度に大きな影響を与えていた。2011年調査では、「公園の利用」がトップとなり、「日用品の買い物」「スポーツ施設・機会」がそれに次いでいる。両年を比較すると、「日用品の買い物」は毎日の生活に最も結びついた側面であることから、いずれも重要な要因となっている。「公園の利用」は、2001年と比較して、2011年にはその影響度が大きく増加しており、「スポーツ施設・機会」も同様の傾向にある。一方で「交通の便」は2001年と比較して2011年は影響度が大きく低下している。これは、名古屋鉄道知多新線

並びに町が運営している巡回ミニバスが最低限のニーズに対応しているともとらえられるが、むしろ、これ以上のサービス向上が期待できないという諦めとマイカー利用への依存によるものとも解釈できる。

(3) 安全性

図 21 に示すとおり、安全性については、両調査に大きな差異はなく、いずれも「子どもの安全性」「夜間の安全性」「生活道路の安全性」が、全体の安全性満足度に大きな影響を与えている要因である。「津波高潮の安全性」は、図 8 に示すように現状の満足度は非常に悪いが、安全性総合評価にはほとんど寄与していないことがわかる。

(4) 文化性

図 22 に示すとおり、文化性については、両調査とも「女性の地域参加」が総合的な満足度にずば抜けて大きな影響を及ぼしている。図 8 に示すように、全体としての評価点はほぼ中庸であるが、「女性の地域参加」に満足していると文化性に関わる総合評価も高くなるのに対して、「女性の地域参加」に不満足な場合には、全体評価も大きく下がることわかる。なお、「女性の地域参加」に関する

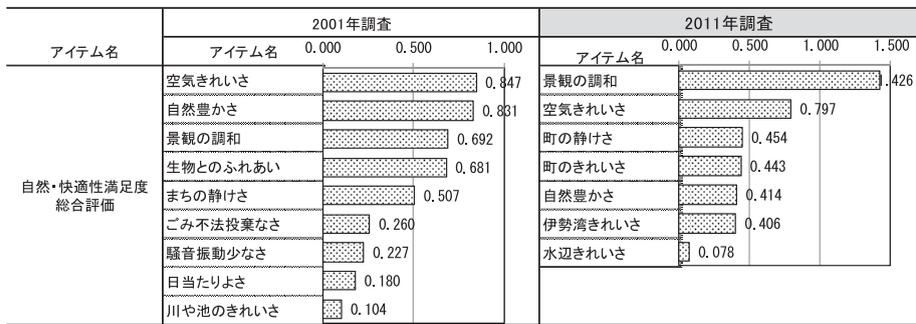


図 19：自然・快適性にかかわる評価構造の比較

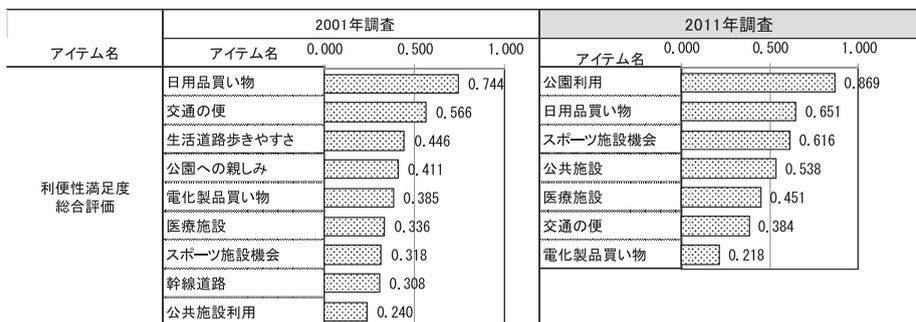


図 20：利便性にかかわる評価構造の比較

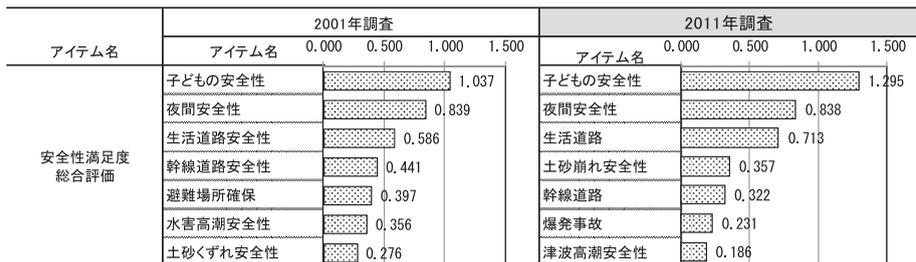


図 21：安全性にかかわる評価構造の比較

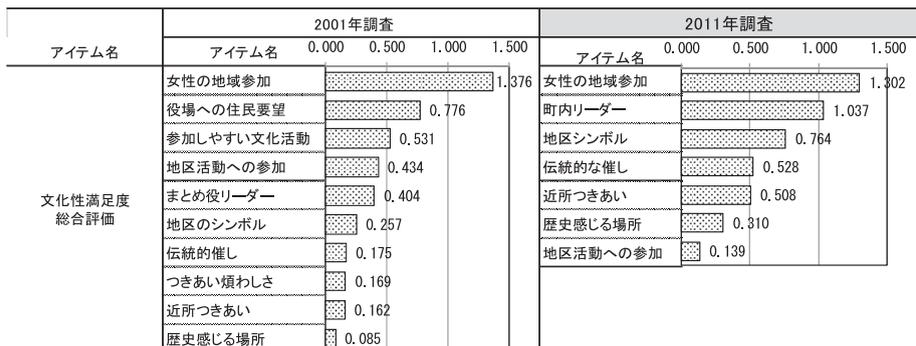


図 22：文化性にかかわる評価構造の比較

アイテム名	2011年調査				2011年調査					
	アイテム名	0.000	0.500	1.000	1.500	アイテム名	0.000	0.500	1.000	1.500
生活環境全体 総合評価	自然快適性総合評価	1.297				自然快適性総合評価	1.131			
	利便性総合評価	1.021				文化性総合評価	1.099			
	文化性総合評価	0.814				利便性総合評価	0.810			
	安全性総合評価	0.559				安全性総合評価	0.720			

図 23：生活環境全体にかかわる評価構造の比較

満足度について、性別および年齢別のクロス分析を行ったが、いずれも特に顕著な差は認められなかった。一方、「地区活動への参加」は、2001年調査では上位4番目であったが、2011年調査では非常に小さくなっていることが特徴的である。

(5) 生活環境全体

4つの視点ごとの総合評価が住まいの地区の生活環境全体の満足度に対してどう影響しているかを、両年度の調査結果に基づいて比較したものが図 23 である。

いずれの調査においても、「自然・快適性総合評価」が最も大きく、「安全性」が最も小さい。「利便性」と「文化性」は順序が入れかわっているが、全体として過去 10 年間で、生活環境をどう評価しているかの構造に顕著な差が認められないことが明らかとなった。

6. 今後の取り組みに関する重要度

6-1 重要度

前項の満足度と同じ項目に対して、今後の取り組みの重要性について 5 段階評価で回答を求めた。

その結果を、「非常に重要」を 2 点、「ある程度重要」を 1 点、「あまり重要でない」をマイナス 1 点、「重要でない」をマイナス 2 点として、各項目に対する評価結果を得点化して結果を図 24 に示す。

重要度が最も高い項目は、「津波高潮の安全性」(1.39) である。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災に伴う甚大な津波被害を目の当たりにして、今後の津波対策が最も関心ある項目となっている。

次いで、「医療施設」(1.27)、「夜間の安全性」(1.20)、「町のきれいさ」(1.19) などが重要視されている。

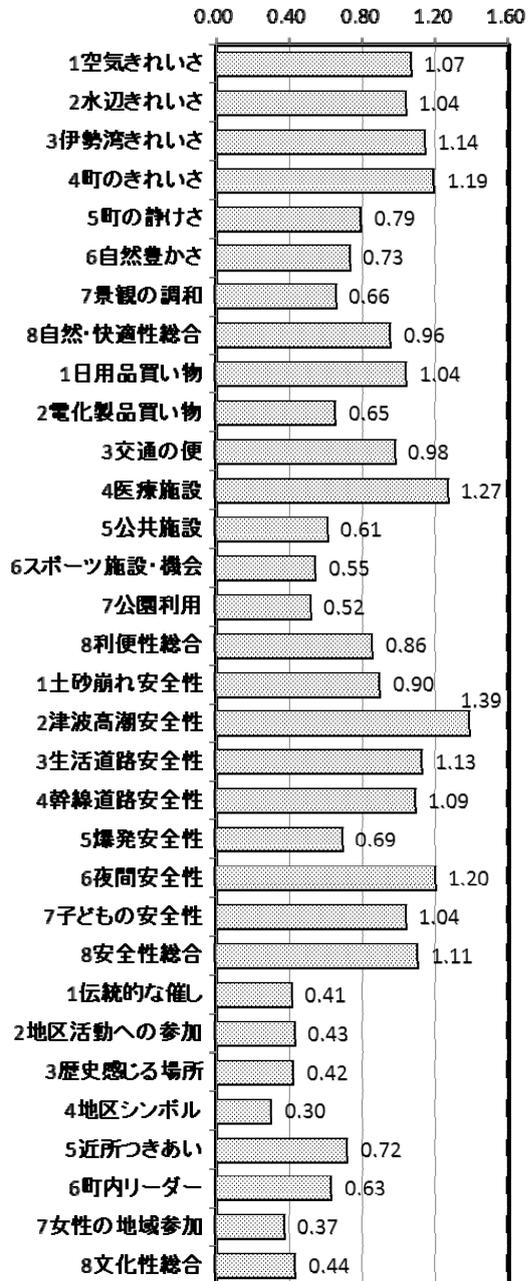


図 24：今後の取り組み重要度

一方、「地区のシンボル」(0.30)、「女性の地域参加」(0.37)など、主として文化性に関わる項目については、重要度が低い。

6-2 評価項目間の相関関係

視点ごとに、重要度に関わる総合評価および各個別評価項目に対する pearson の積率相関係数を示したものが、表 14～表 17 である。評価項目間の pearson の積率相関係数はすべて、1%水準（両側）で有意であった。

(1) 自然快適性

全体として、項目間の相関関係は比較的強く、特に、「水辺のきれいさ」と「伊勢湾のきれいさ」(0.769)、「自然の豊かさ」と「景観の調和」(0.738)は相関係数が 0.7 を超え、強い相関関係が見られた。

これらはいずれも、現状の満足度においても強い相関関係が認められた項目群である。

(2) 利便性

相関係数が 0.7 を超える強い相関関係が認めら

れたものは、「スポーツ施設・機会」と「公共施設」(0.774)、「日用品の買い物」と「電化製品の買い物」(0.749)、「スポーツ施設・機会」と「公園の利用」(0.735)、「交通の便」と「日用品の買い物」(0.708)、「公園の利用」と「公共施設」(0.707)であった。

(3) 安全性

「幹線道路の安全性」と「生活道路の安全性」(0.893)は非常に強い相関関係が認められ、道路の安全性を重視する立場からは同様にとらえられている。また、その他の多くの項目間でも、相関係数が 0.6 ないしは 0.7 以上と、かなり強い相関関係が認められる。つまり、安全性を今後重要視する立場の人の場合、いずれの項目にも関心が高いことがうかがえる。

(4) 文化性

相関係数が 0.8 を超えるものが、「地区活動への参加」と「伝統的な催し」(0.816)、「町内のリーダーの存在」と「近所つきあい」(0.802)であり、重要視する立場が極めて近いことを示している。

表 14：自然・快適性に関わる評価項目間の相関係数（今後の重要度）

重要度	A1空気きれいさ	A2水辺きれいさ	A3伊勢湾きれいさ	A4町のきれいさ	A5町の静けさ	A6自然豊かさ	A7景観の調和	A8自然・快適性総合
A1空気きれいさ	1.000							
A2水辺きれいさ	0.691	1.000						
A3伊勢湾きれいさ	0.612	0.769	1.000					
A4町のきれいさ	0.606	0.708	0.691	1.000				
A5町の静けさ	0.666	0.619	0.601	0.656	1.000			
A6自然豊かさ	0.607	0.664	0.654	0.652	0.674	1.000		
A7景観の調和	0.579	0.622	0.621	0.620	0.663	0.738	1.000	
A8自然・快適性総合	0.645	0.670	0.665	0.700	0.688	0.704	0.745	1.000

表 15：利便性に関わる評価項目間の相関係数（今後の重要度）

重要度	B1日用品買い物	B2電化製品買い物	B3交通の便	B4医療施設	B5公共施設	B6スポーツ施設・機会	B7公園利用	B8利便性総合
B1日用品買い物	1.000							
B2電化製品買い物	0.749	1.000						
B3交通の便	0.708	0.624	1.000					
B4医療施設	0.554	0.442	0.566	1.000				
B5公共施設	0.508	0.418	0.482	0.672	1.000			
B6スポーツ施設・機会	0.462	0.454	0.454	0.605	0.774	1.000		
B7公園利用	0.440	0.392	0.469	0.595	0.707	0.735	1.000	
B8利便性総合	0.554	0.494	0.555	0.672	0.670	0.685	0.726	1.000

表 16：安全性に関わる評価項目間の相関係数（今後の重要度）

重要度	C1土砂崩れ安全性	C2津波高潮安全性	C3生活道路安全性	C4幹線道路安全性	C5爆発事故	C6夜間安全性	C7子どもの安全性	C8安全性総合
C1土砂崩れ安全性	1.000							
C2津波高潮安全性	0.607	1.000						
C3生活道路安全性	0.667	0.738	1.000					
C4幹線道路安全性	0.653	0.690	0.893	1.000				
C5爆発事故	0.707	0.594	0.663	0.661	1.000			
C6夜間安全性	0.601	0.695	0.695	0.689	0.625	1.000		
C7子どもの安全性	0.648	0.660	0.711	0.711	0.648	0.747	1.000	
C8安全性総合	0.631	0.679	0.745	0.746	0.666	0.743	0.787	1.000

表 17：文化性に関わる評価項目間の相関係数（今後の重要度）

重要度	D1伝統的な催し	D2地区活動への参加	D3歴史を感じる場所	D4地区シンボル	D5近所つきあい	D6町内リーダー	D7女性の地域参加	D8文化性総合
D1伝統的な催し	1.000							
D2地区活動への参加	0.816	1.000						
D3歴史を感じる場所	0.737	0.756	1.000					
D4地区シンボル	0.701	0.728	0.791	1.000				
D5近所つきあい	0.695	0.734	0.711	0.687	1.000			
D6町内リーダー	0.684	0.741	0.704	0.720	0.802	1.000		
D7女性の地域参加	0.693	0.736	0.730	0.747	0.734	0.788	1.000	
D8文化性総合	0.693	0.735	0.731	0.741	0.727	0.749	0.803	1.000

また、その他のほとんどの項目においても、相関係数が0.7を超える強い相関関係を示しており、文化性に関わる項目は、個々の項目にこだわらずに共通的に重要視するか否かの傾向が見られることがわかる。

6-3 数量化Ⅱ類による今後の重視度評価の構造化

前述の生活環境の満足度評価と同様の手法で、今後の重要度を構造化した。つまり、総合的な重要度を外的基準、各評価項目の重要度を説明指標として、林の数量化Ⅱ類を用い、外的基準（各総合的な重要度）に対して、どの項目（アイテム）の重要度が大きな影響を及ぼしているかを分析した。なお、分析にあたっては、5段階で評価された意識調査結果を3段階に集約してデータ処理している。

視点ごとに、第一軸および第二軸の相関比、寄与率、累積寄与率を示したものが、表18～表21である。

自然・快適性および利便性については、相関比に基づく第一軸の寄与率がそれぞれ、0.520、0.528

表 18：自然・快適性に関わる寄与率（今後の重要度）

判別式	相関比	寄与率	累積寄与率
第一軸	0.013	0.520	0.520
第二軸	0.012	0.480	1

表 19：利便性に関わる寄与率（今後の重要度）

判別式	相関比	寄与率	累積寄与率
第一軸	0.019	0.528	0.528
第二軸	0.017	0.472	1

表 20：安全性に関わる寄与率（今後の重要度）

判別式	相関比	寄与率	累積寄与率
第一軸	0.033	0.750	0.750
第二軸	0.011	0.250	1

表 21：文化性に関わる寄与率（今後の重要度）

判別式	相関比	寄与率	累積寄与率
第一軸	0.023	0.639	0.639
第二軸	0.013	0.361	1

と低いため、一つの軸だけで、外的基準との影響度を議論することはできない結果となった。

安全性に関しては、相関比に基づく第一軸の寄与率が0.750と比較的高いが、カテゴリによって回答数が大きく異なるため、カテゴリースコアから、総合的な重要度に対する影響度を判断することができない結果となった。

文化性についても、第一軸の寄与率は0.639と比較的高いが、やはり、カテゴリースコアから、総合的な重要度に対する影響度を解析できない結果となった。

つまり、いずれの視点においても、カテゴリースコアに基づくレンジから判断すると、総合的な重要度に対する各アイテムの寄与度を判断することは困難であった。

このことは、現状の満足度については、一定の評価構造を見出すことが可能であったが、重要度を判断する場合、特定のアイテムの重要度にとらわれることなく、総合的に独立して判断していることを示唆している。

7. 生活環境に対する満足度と重要度の相関

前述の満足度と重要度の得点を散布図として表記したものが図25である。左上に位置する項目は、満足度が低い一方で、重要度が高いと評価されていることを示し、今後の取り組みが特に重要と考えられる項目である。ここに位置する項目としては、「津波高潮の安全性」「夜間の安全性」「町のきれいさ」などがあげられる。

右上に位置する項目は、現状の満足度が高いことに加えて、今後の重要度も高く、現状を維持することが強く期待されている項目である。「医療施設」や「空気のきれいさ」が該当する。

一方、右下に位置する項目は、現状の満足度が高いものの、今後の重要度は比較的低いことになる。「歴史を感じられる場所の存在」「伝統的な催しの存在」など、文化性に関わる項目が多く位置している。重要度が低い項目の中には、現状を維持すればよいという意味で重要度が低くなっている項目も含まれると推測できる。

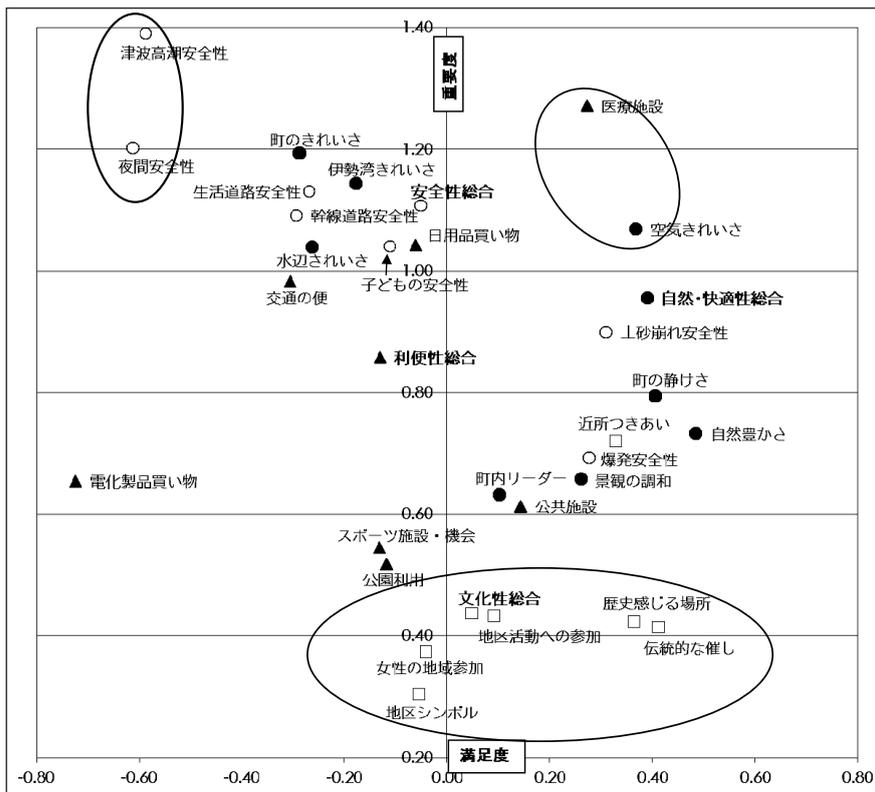


図 25：満足度と重要度の相関

8. まちづくりに対する意識・参画態度

まちづくりに対する意識や参画態度に関わる因子を明らかにするため、下記の13項目について、「5. そう思う」から「1. そう思わない」までの5段階評価を求めた。

<設問>

- ① まちづくりを通して、この地区を魅力的にしていく責任を感じている
- ② まちづくりの世話役を頼まれたら引き受けてもよいと思う
- ③ まちづくり活動に積極的に関わるのは煩わしい
- ④ まちづくりを行うのは、主として行政の責任である
- ⑤ まちづくりを行うのは、主として住民の責任である
- ⑥ 行政は、もっと積極的にまちづくりを推進するべきである

- ⑦ 住民は、もっと主体的にまちづくりに参加するべきである
- ⑧ 行政は、まちづくりを進めるのに必要な資金や人財を豊富に抱えている
- ⑨ まちづくりに関して、住民が努力すればそれだけ成果が上がる
- ⑩ 他の地区よりも優先して生活環境の整備をしてほしい
- ⑪ 自分の居住地区よりも遅れている地区を優先してもよい
- ⑫ 自分の居住地区のまちづくりのために寄付や援助を求められれば協力する
- ⑬ 美浜町全体のまちづくりのために寄付や援助を求められれば協力する

8-1 回答結果

図26に回答結果を示す。

「そう思う」との回答比率が最も高かった項目は、「行政はもっと積極的にまちづくりを推進す

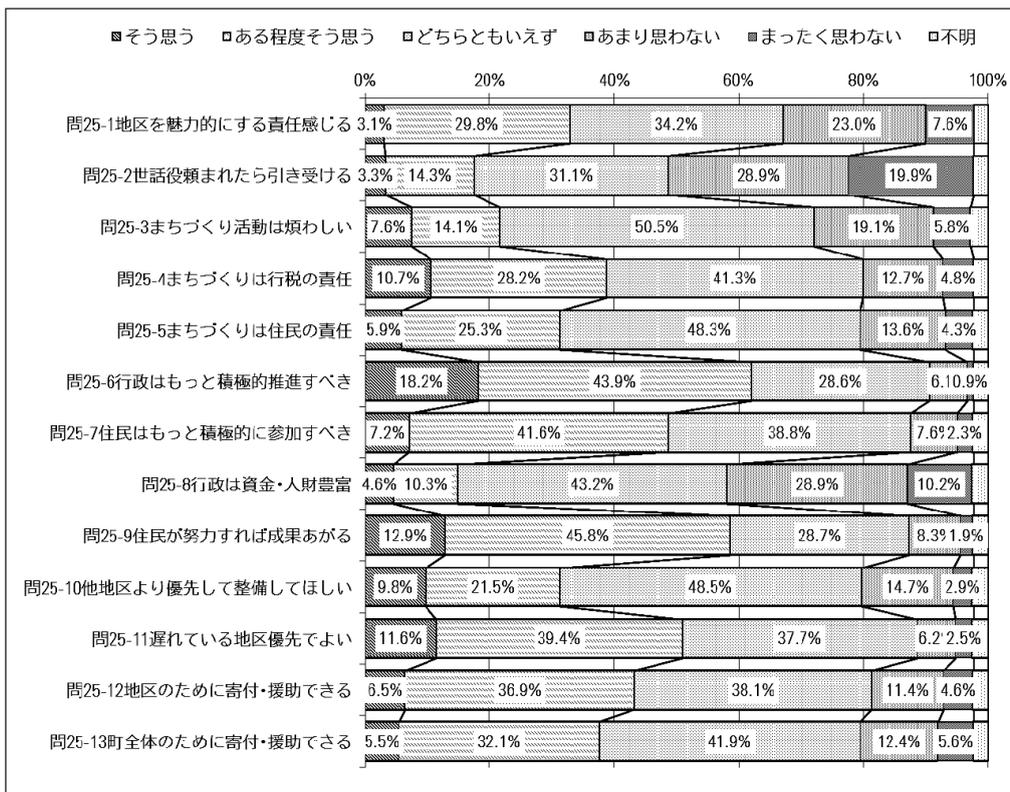


図26：まちづくりへの意識・参画態度

べき」であり、「ある程度そう思う」を含めると、約6割が行政のさらなる積極性を求めているが、同時に、「行政はまちづくりの資金・人財が豊富」だと考えているのは14.9%に過ぎない。

一方、「住民が努力すれば成果があがる」と考えているとの回答は約6割に達しており、また、「住民はもっと積極的にまちづくりに参加すべき」との回答も約半数である。これらのことから、住民自ら積極的にまちづくりに参加できれば、成果が大いに期待できると考えており、同時に、行政に対して、人財の育成などを含めて、まちづくりへのさらなる主体的な参加を求めていることがわかる。

8-2 得点化

「そう思う」を2点、「ややそう思う」を1点、「あまり思わない」をマイナス1点、「まったく思わない」をマイナス2点として得点化し、性別に平均点を求めたものが図27である。評価点が高

い項目は、「行政は積極的に推進すべき」「住民が努力すれば成果があがる」などであり、逆に評価が低いのは、「世話役を引き受ける」「行政は資金・人財が豊富」である。

男女間で差が認められる項目は、「住民が努力すれば成果があがる」であり、男性0.51、女性0.70と、女性の方がそう思う比率が高くなっている。一方、「世話役を引き受ける」は、男女ともにマイナスではあるが、男性-0.39、女性-0.58と、女性の方がより否定的である。

8-3 項目間の相関関係

項目間の相関関係を示したものが表22である。相関係数が0.6を超えるのは、「地区を魅力的にする責任感じる」と「世話役を引き受ける」(0.612)、「まちづくりは住民の責任」と「住民は積極的に参加すべき」(0.604)である。前者は、自ら主体的にまちづくりに参画していく態度に関わるものであり、後者は、まちづくりの責任主体

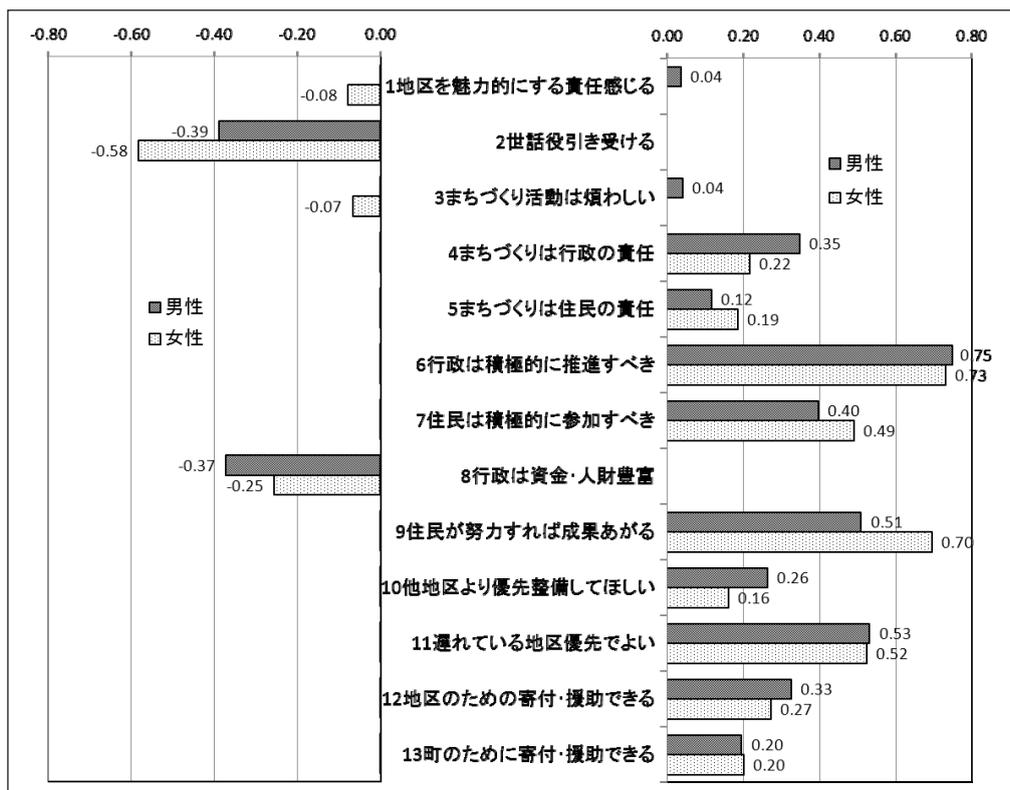


図27：性別にみたまちづくりへの意識・参画態度

表 22：まちづくりへの意識・参画態度にかかわる項目間の相関関係

	1地区を魅力的にする責任を感じる	2世話役を引き受ける	3まちづくり活動は煩わしい	4まちづくりは行政の責任	5まちづくりは住民の責任	6行政は積極的に推進すべき	7住民は積極的に参加すべき	8行政は資金・人財豊富	9住民が努力すれば成果あがる	10他地区より優先整備してほしい	11遅れている地区優先でよい	12地区のための寄付・援助できる	13町のための寄付・援助できる
1地区を魅力的にする責任を感じる	1.000												
2世話役を引き受ける	0.612	1.000											
3まちづくり活動は煩わしい	-0.022	-0.106	1.000										
4まちづくりは行政の責任	0.062	0.005	0.350	1.000									
5まちづくりは住民の責任	0.359	0.337	0.144	0.058	1.000								
6行政は積極的に推進すべき	0.295	0.247	0.245	0.566	0.214	1.000							
7住民は積極的に参加すべき	0.517	0.483	0.085	0.127	0.604	0.477	1.000						
8行政は資金・人財豊富	0.258	0.245	0.171	0.302	0.166	0.349	0.252	1.000					
9住民が努力すれば成果あがる	0.452	0.416	0.136	0.117	0.497	0.334	0.599	0.281	1.000				
10他地区より優先整備してほしい	0.261	0.213	0.223	0.361	0.216	0.497	0.368	0.378	0.364	1.000			
11遅れている地区優先でよい	0.246	0.256	0.265	0.178	0.346	0.258	0.389	0.165	0.398	0.197	1.000		
12地区のための寄付・援助できる	0.405	0.439	0.096	0.117	0.358	0.296	0.465	0.188	0.536	0.286	0.454	1.000	
13町のための寄付・援助できる	0.421	0.459	0.068	0.103	0.365	0.291	0.481	0.210	0.532	0.285	0.428	0.888	1.000

注：濃い網掛けは相関係数0.6以上、薄い網掛けは0.5以上を示す。

に関わる項目である。

一方、「世話役を引き受ける」と「まちづくり活動は煩わしい」(-0.106)、「地区を魅力的にする責任を感じる」と「まちづくり活動は煩わしい」(-0.022) はマイナスの相関となっている。

8-4 因子分析手法による態度・意識の分析

分析手法として、因子抽出法は、重みなし最小二乗法、最尤法、主因子法の3方法、軸の回転についてはバリマックス直交回転法を用いたが、この3方法の結果に顕著な差がなかったため、本稿では、重みなし最小二乗法の結果を採用している。

抽出された因子とその因子負荷量は表23のとおりである。13の因子が抽出されたが、固有値が1.0以上の因子は3つであった。これらの因子の累積固有値は全体の61.044%、回転後の負荷量平方和は全体の50.841%であった。

回転後の因子行列は図28のとおりである。各因子に大きく寄与している変数をみると、第一因子は、「地区のために寄付・援助できる」「町のために寄付・援助できる」「住民は積極的に参加すべき」「住民が努力すれば成果あがる」などの変数の負荷量が大きく、逆に「まちづくり活動は煩わしい」などが小さいことから、「主体的自発度」

表 23：まちづくりへの意識・態度にかかわる因子

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和		
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%
1	4.930	37.921	37.921	4.512	34.708	34.708
2	1.858	14.295	52.217	1.367	10.513	45.221
3	1.148	8.828	61.044	.731	5.620	50.841
4	.933	7.177	68.221			
5	.734	5.648	73.869			

と解釈できる。第二因子は、「まちづくりは行政の責任」「行政は積極的に推進すべき」などの負荷量が大きいことから、「責任所在度」と名づけられる。第三因子は、「地区のために寄付・援助できる」「町のために寄付・援助できる」が大きいことから、「金銭的負担度」と名づけることができる。

この結果は、2001年に行った住民意識調査結果⁽²⁾とほぼ同じことから、まちづくりに対する参加態度や行政と住民との責任分担などに関しては、主体的自発度、責任所在度、金銭的負担度の3つの因子によって決定されていることが明らかとなった。

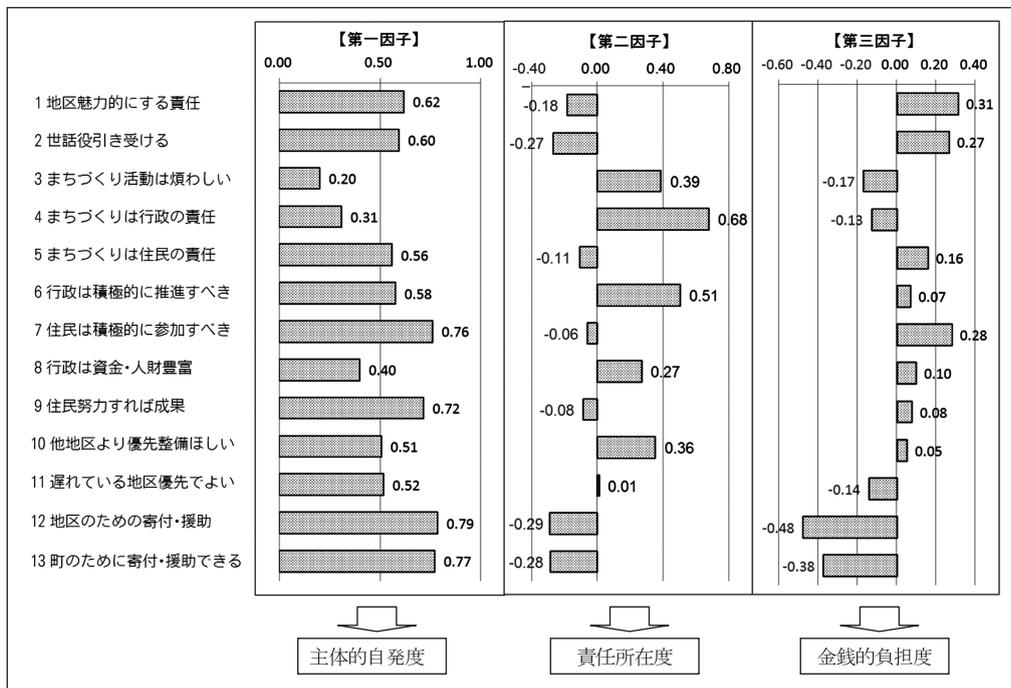


図 28：まちづくりへの意識・参画態度を規定する因子

9. まとめ

本研究で明らかになった点は以下のとおりである。

- ① 林の数量化Ⅱ類を用いて、満足度の分析を行った結果、カテゴリースコアのレンジから見て、自然・快適性の満足度に影響を及ぼす要因としては、「景観の調和」「空気のきれいさ」などがあげられる。一方、「水辺のきれいさ」は総合的な満足度にほとんど寄与していない。10年前の調査と比較すると、自然・快適性に関わる住民の満足度評価については、顕著な差は認められない。
- ② 利便性については、「公園の利用」が最も大きく、「日用品の買い物」「スポーツ施設・機会」がそれに続いている。全体として、利便性に関する総合評価には、スポーツや公園の利用機会が大きく影響していることが明らかとなった。10年前の調査と比較すると、「日用品の買い物」は変わらず重要な要因となっている。「公園の利用」は、影響度が大きく増加しており、「スポーツ施設・機会」も同様の傾向にある。一方で「交通の便」は影響度が大きく低下している。

- ③ 安全性については、日常生活に直結していることが可視化しやすい「子どもの安全性」や「夜間の安全性」が強く意識されている。10年前の調査と比較しても大きな差異はなく、いずれも、「子どもの安全性」「夜間の安全性」「生活道路の安全性」が、総合評価に大きな影響を与えている。
- ④ 文化性については、「女性の地域参加のしやすさ」が最も大きく、総合評価に影響を及ぼしている。次いで、「町内のリーダーの存在」「地区のシンボル」が大きなレンジを示している。10年前の調査と比較しても「女性の地域参加」が総合的な満足度にずば抜けて大きな影響を及ぼしている。
- ⑤ 生活環境全体の総合評価に最も影響しているのは「自然・快適性に関わる総合評価」であり、次いで、「文化性に関わる総合評価」である。過去10年間で全体の評価構造に大きな変化は認められない。
- ⑥ 以上のように、現状の満足度については一定の評価構造を見出すことが可能であったが、今後の取り組みの重要度については、林の数量化Ⅱ類

に基づく第一軸の寄与率が低かった。つまり、特定のアイテムの重要度にとらわれることなく、総合的に独立して判断していることを示唆している。

⑦ 満足度と重要度の得点を散布図として表記すると、「津波高潮の安全性」「夜間の安全性」「町のきれいさ」などは、現状の満足度が低い一方で、重要度が高いと評価されており、今後の取り組みが特に重要と考えられる。

⑧ まちづくりの意識・参画態度に関連する設問の回答結果をもとに、因子分析を行った。その結果、主体的自発度、責任所在度、金銭的負担度の3つの因子によって決定されていることが明らかとなった。この結果は、2001年に行った住民意識調査結果とほぼ同じであった。

謝辞

本調査を行うにあたっては、美浜町企画政策課の方々大変お世話になった。期して感謝の意を表したい。

引用・参考文献

- (1) 美浜町、日本福祉大学福祉社会開発研究所まちづくり研究センター(2012)「美浜町まちづくりアンケート調査報告書」。
- (2) 千頭 聡、川部竜士(2003)「まちづくりに対する態度及び生活環境評価の構造化」知多半島の歴史と現在 No.12、pp.55-91、校倉書房。